

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名(主)	フードバンクのハード整備と食品提供の継続
事業名(副) ※任意	生活困窮者・学生・子供食堂等への食品提供

入力数 主 20 字 副 20 字

実行団体名	社会福祉法人正仁会
資金分配団体名	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
1.貧困をなくそう
2.飢餓をゼロに
11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021年 7月 ~ 2021年 12月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (広島県内)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	・広島県社会福祉協議会、障がい者作業所、子ども食堂、子ども学習支援グループ、一人親家庭支援グループ、若者自立支援グループ、学生食料支援グループ、大学・専門学校・個人等の食料支援依頼者 ・企業、農家、個人等の食料提供者	事業 対象者人 数	36,000人
------	----------------------	------------	--	---	---	-----------------	---------

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的
1. 社会福祉事業 社会福祉法人正仁会は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、社会福祉事業を行う。 2. 公益事業 社会福祉法人正仁会は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、公益事業を行う。
(2)団体の概要・事業内容等
1. 社会福祉事業 (1) 第一種社会福祉事業 (イ) 特別養護老人ホームの経営 (ロ) ケアハウスの経営 (2) 第二種社会福祉事業の抜粋 (イ) 老人デイサービス事業の経営 (ロ) 老人短期入所事業の経営 (ホ) 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営 2. 公益事業 (1) 事業所内保育所の運営事業 (2) 訪問看護事業 (3) フードバンクの運営事業 (4) 外国人人材育成事業

入力数 (1) 196 字 (2) 187 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
①食料引き渡し者 当法人は設立当初より、生活困窮者支援団体を介し、そこから個人支援につながるようになっていた。しかし、支援対象である社会福祉協議会や一人親家庭支援グループなどから、今までぎりぎり生活を維持していたが、コロナ禍が引き金となり、職を失う、収入が減少した等々により、とても生活が苦しい人たちの増加という情報が寄せられるようになり、直接生活困窮者への支援も必要な状況になった。 ②食料提供者 コロナによる自粛要請を受け、食品関連事業者は事業の中止、規模縮小を行った。その影響で、大量の食料が行き場を失い、廃棄すればコストが増す、環境に負荷を与えるなど、事業者や生産者への負担は計り知れない。 ③フードバンクネットワーク フードバンク活動は、ビジネス的なモデルを構築することが困難な活動である。そのため多くのフードバンク活動団体は資金的、人的なリソース不足にあり、その活動の基盤は非常に脆弱である。 そのような状況ではあるが、寄付やボランティアといった共感や善意を支えられながら着実に活動の幅を広げている。 コロナの影響をうけ益々高まるニーズに対応するためには、行政セクターや企業セクターとの協働や寄付・ボランティアをこれまで以上に拡大して行くが必要だが、個々のフードバンク活動団体で対応することは困難であり、そのためにネットワークを構築し連携・連帯で対応することが必要である。しかし、現在は十分なネットワークが構築できていない。

入力数 621 字

III.事業内容

(1)事業の概要
ハード整備 ・大型倉庫の新設、現行倉庫の改修、大型冷蔵庫・冷凍庫の購入、1.5トントラックの購入による取り扱い物資拡大
ネットワーク整備 ・県内フードバンク活動主体連携促進およびオンライン学習会を通じたフードバンク共感者の拡大

入力数 114 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備により、食料取扱量が現行35トン/年から50トン/年に増加している。 <p>ネットワーク整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県内のフードバンクネットワークが構築されている。 ・オンライン学習会に参加した関心のある人が寄付やボランティア等を通じてフードバンク活動に参加している。

入力数 136 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫設備が整っている ・トラックが購入されている <p>ネットワーク整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインミーティングに県内のフードバンク活動主体者が参加している ・オンライン学習会にフードバンク関係者、関心のある人が参加している 	<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新設・改修された倉庫の有無 ・購入した冷凍冷蔵庫の有無 ・購入したトラックの有無 <p>ネットワーク整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインミーティングに参加した団体数 ・オンライン学習会の参加人数 ・オンライン学習会での学びの理解度 	<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備購入した備品等の目視による確認 <p>ネットワーク整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインミーティング参加者リストの作成 ・オンライン学習会参加者リストの作成 ・参加への事前事後アンケートを実施し理解度の向上を把握する 	<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倉庫の完成 ・冷凍冷蔵庫の納品 ・トラックの納品 <p>ネットワーク整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインミーティング参加団体7団体 ・オンライン学習会参加者数延べ30人 ・理解度が向上した参加者の割合60% 	<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年9月中 <p>ネットワーク整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年12月時点で、参加団体数及び参加者数をカウントする。

(4)活動	時期
<p>ハード整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型冷蔵冷凍庫の購入、新旧入替に伴う建築工事 ・大型倉庫の新設と現行倉庫の仕様の改修工事 ・食料品搬送用の1.5トントラックの購入 <p>ネットワーク整備</p> <p>●オンラインミーティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現存する県内フードバンク活動主体者の連携を取り情報共有するため、フードバンク活動主体者対象にオンラインミーティングを事業期間内に3回実施 <p>●オンライン学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習会企画のブラッシュアップ、広報 ・フードバンク関係者、関心のある人を対象にオンライン学習会を事業期間内に3回実施 <p>対象：フードバンク活動主体者、フードバンクに関心のある人</p> <p>内容案：食品ロスの現状と課題、食品ロスの発生要因、わが国のフードバンクの状況と課題今後の展望</p>	<p>ハード整備</p> <p>2021年9月中</p> <p>ネットワーク整備</p> <p>●オンラインミーティング</p> <p>2021年7月より2か月毎に行う。</p> <p>●オンライン学習会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月下旬：ひろしまNPOセンターと企画 ・8月上旬：ひろしまNPOセンターと計画 ・8月中旬：学習会広報（SNS、行政に働きかけなど） ・9月下旬：第一回学習会（案：食品ロスの現状と課題） ・10月下旬：第二回学習会（案：食品ロス発生要因） ・11月下旬：第三回学習会（案：わが国のフードバンクの状況と課題、今後の展望）

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<ul style="list-style-type: none"> ●実行責任者：社会福祉法人正仁会理事長二宮正則 業務執行理事松林克典 ●購入チーム 現行冷蔵冷凍庫の撤去・新冷蔵冷凍庫の設置及び関連の工事に関する手続き 担当者 入船参与、三井会計担当者 ●支援食料供給チーム 責任者：あいあいねっと代表原田佳子 食料の授受に関する企業や個人との連絡・調整を行い、食支援の具体的な指示を行う。スタッフ3名は代表の指示を受け、ボランティアに作業の段取りを伝え、スタッフ、ボランティアで協働し食料の搬入、整理、記録、分配、搬出を行う。
(2)他団体との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ●広島県内既存のフードバンク活動主体者、広島市、広島県内自治体の関係部署、広島県内社会福祉協議会、広島市社会福祉協議会に、この度のハード整備の情報を伝える。さらに、広島県内の企業、生産者にフードバンク活動に関しての情報を伝え連携を図る。
(3)想定されるリスクと管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ●リスク 活動の拡大に伴い、人流が盛んとなることが予想される。 ●対策 スタッフ、ボランティアに新型コロナウイルスの日々の情報を度々伝える。 日々の体調管理と3密を避けることを徹底する。 あいあいねっと事務所内の消毒と換気に務める。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input checked="" type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	有の場合その詳細	広島市新型コロナウイルス感染症の影響による地域福祉活動緊急支援事業補助金1,000,000円受け、食品出入庫管理システムを構築
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>			※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<ul style="list-style-type: none"> ・実作大学の研究助成金で、2020年4月より「自然災害など緊急時における学校給食停止による学校給食における食品ロスの調査」を開始し、2021年度も継続して実態調査を行っている。 ・岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県のフードバンク代表者が2019年8月末に立ち上げた「全国食品ロス削減研究会」で、連携を取り、日常的にコロナ支援に関するフードバンク活動の情報を共有し、課題を協議している。 				